

先端技術のシーズが公開される ロバスト農林水産工学「科学技術先導研究会」東京で初開催

【概要】

北海道大学は、2018年7月10日（火）、三井住友銀行本店東館でロバスト農林水産工学「科学技術先導研究会」を開催します。

北海道大学は、2017年5月にロバスト農林水産工学科学技術先導研究会を設立し、本年4月から6カ年計画で実施する「ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点構想」をスタートさせました。ロバストとは「強靱性」のことであり、具体的には、農林水産業が工学などの技術との連携により、気候変動等の環境変化に適応しながら、持続可能な食料生産を行うことを目指しています。これまでの研究会はすべて北海道内で開催してきましたが、研究会設立から数えて第7回目となる今回、初めて東京での開催が実現しました。

今回の研究会では、北海道大学大学院農学研究院・工学研究院・水産科学研究院、帯広畜産大学から4名の研究者が出席し、バレイショの生命力を活用した発芽促進技術、光波長変換フィルムを用いた温室での食物育成、北海道におけるチョウザメの陸上養殖技術の開発、アニマルウェルフェア（家畜福祉）をテーマとした研究シーズについて発表します。

参加するのは、一般企業、金融機関、研究機関、関係団体等で、研究シーズ発表の後、参加者と発表者が直接対話できる交換会を設けています。

【趣旨】

ロバスト農林水産工学科学技術先導研究会は、農林水産業の生産者や地方自治体、他大学、公的研究機関、一般企業などが北海道大学を中心にクラスター形成を進めることで、北海道版フードバレーの構築を目指しています。また、農林水産業や食品製造・加工・流通業などの現場が抱える課題の解決や、自ら問題解決ができる博士人材等の育成を目標としています。

この研究会には現在、北海道大学の研究者をはじめ一般企業58社、金融機関、関係団体、行政など31組織、総勢308名が所属しています。

東京での初開催となる今回の研究会を迎えるにあたり、北海道という枠を越え、日本全国の農林水産業従事者や研究機関、団体、行政機関に、当研究会の活動について広く知ってもらう足掛かりとなることを期待しています。



- 【日 時】** 2018年7月10日(火) 14:00~17:30
- 【場 所】** 三井住友銀行本店東館 28F (東京都千代田区丸の内1-3-2) ※受付は B1F
- 【主 催】** 北海道大学 ロバスト農林水産工学科学技術先導研究会
- 【対 象】** 事前に参加申込をした企業, 研究機関, 団体, 金融機関, 行政など
- 【言 語】** 日本語
- 【プログラム】**
1. 開会のあいさつ (14:00-14:20)
国立大学法人北海道大学 総長 名和豊春
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 理事長 久間和生
 2. ロバスト農林水産工学科学技術先導研究会の案内 及び
北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点について (14:20-14:30)
北海道大学大学院工学研究院長 増田隆夫
 3. 研究シーズ発表 (各 20 分 質疑応答含む) (14:30-15:50)
 - (1) バレイショプロジェクト
松浦英幸 教授 (北海道大学大学院農学研究院 基礎研究部門)
 - (2) 発光フィルムを用いた食物育成
長谷川靖哉 教授 (北海道大学大学院工学研究院 応用化学部門)
 - (3) 北海道におけるチョウザメ養殖技術開発について ~農林水産工学連携への期待~
都木靖彰 教授 (北海道大学大学院水産科学研究院 海洋応用生命科学部門)
 - (4) アニマルウェルフェア (家畜福祉) という新価値の提案
瀬尾哲也 准教授 (帯広畜産大学 生命・食料科学研究部門)
 4. 意見交換 (15:50-16:15)
 5. ロバスト農林水産工学科学技術先導研究会 今後の展開について (16:15-16:20)
北海道大学大学院工学研究院副研究院長 瀬戸口剛
 6. 閉会のあいさつ (16:20-16:30) 北海道大学大学院農学研究院長 横田 篤
 7. 名刺交換会 (16:30-17:30) (場所: 同会議室)

お問い合わせ先

北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点 勝山 (かつやま), 平井 (ひらい)
T E L 011-706-6741 F A X 011-706-6741 メール robust@eng.hokudai.ac.jp

配信元

北海道大学総務企画部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目)
T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール kouhou@jimuhokudai.ac.jp